

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

平成28年1月15日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 ケブカノメイガ *Crocidolomia pavonana* (Fabricius)

2 作物名 アブラナ科野菜（キャベツ等）

3 発生確認および発生状況

(1) 発生確認年月日：平成27年9月16日

(2) 発生状況：

鹿屋市串良町の露地栽培キャベツにおいて、ケブカノメイガの幼虫が集団で芯部を加害しているのが確認された。本虫は、1970年代に長崎県、鹿児島県屋久島、沖縄県南大東島で標本の記録がある。

また1982年には沖縄本島中部地域で多数の幼虫が採取されており、その後、静岡県、愛知県、兵庫県、東京都で発生が確認されている。本県本土では、数年前からクレオメに寄生が確認されていたが、アブラナ科野菜で寄生が確認されたのは今回が初めてである。

4 形態及び生態の特徴

(1) 形態：前翅長は9mm内外。前翅は灰褐色で内・外横線は赤褐色を帯び、中央部が外縁に向け突出する。雄の前縁基部近くに毛の束があり、裏面の中室前後の脈が隆起し、鱗毛があるが、雌では毛の束は無い。後翅は白色。幼虫の体長は17mm内外。淡黄緑色、頭部は淡褐色、硬皮板は黒褐色。背線、亜背線は白色で細い。亜背線と気門上線に沿って黒点が並ぶ。色調は個体変異が多い。

(2) 寄主植物：国内では、主にアブラナ科野菜（キャベツ、ハクサイなど）を加害するが、海外ではレタス、キュウリ、メロン、スイカ、カボチャなども加害することが知られている。

(3) 被害：若齢幼虫は、幼株の芯部を集団で食害することから、芯止まりなど大きな被害を与える。老熟幼虫は、分散して葉裏からも摂食し、太い葉脈や中肋のみを残して食害する。

(4) 主な分布：海外では台湾、東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

5 防除対策

現在のところ、本虫に対する登録薬剤はない。本虫は、ほ場で局所的に発生することから、ほ場の観察をきめ細かく行い、早期発見に努め、発生が確認された株を早期に抜き取り、適切に処分する。

6 参考文献等

(1) 梅谷献二編（2012）原色図鑑 外来害虫と移入天敵（全国農村教育協会）

(2) 吉松慎一（1992）植物防疫46(10):22-24

(3) 土井ら（2005）関東東山病害虫研究会報 第52集



図1 ケブカノメイガ幼虫



図2 ケブカノメイガ成虫



図3 キャベツの芯部被害と幼虫